

・5分前着席を心がけましょう

司式 熊田雄二牧師
奏楽 堀口愛子姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 7:1 父の神よ夜は去りて 新たなる朝となりぬ

我らは今 み前に出でて 御名をあがむ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈悲しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
 2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
 3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
 4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
 5. あなたの父と母を敬え。
 6. あなたは殺してはならない。
 7. あなたは姦淫してはならない。
 8. あなたは盗んではならない。
 9. あなたは隣人について偽証してはならない。
 10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。
- (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 24:1 まぶねのなかに

まぶねの中に うぶごえあげ たくみの家に人となりて

貧しきうれい生きる悩み つぶさになめしこの人を見よ アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 6 ニケア信条(三位一体主日・その他適切な主日)

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。

われは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさぎにみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。

われは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

(325年ニケア信条：キリストの神性、381年コンスタンチノポリス信条：聖霊の神性)

献 金 (黒)教会活動 (赤)東部中会会議を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

《 子どもプログラム 門脇陽子長老・門脇光生兄弟担当 主我を愛す 》

聖書朗読 ルカによる福音書2章21~40節(新約聖書103頁)

説教・祈祷 「律法の下に生まれた神の子」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 24:4 この人を見よ この人にぞ こよなき愛は現れたる
この人を見よ この人こそ 人となりたる いける神なれ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

てん われ ちち
天にまします我らの父よ
ねが みな
願わくは御名をあがめさせたまえ
みくに き みこころ てん
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
われ にちよう かつて きょう あた
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
われ つみ おかもの われ ゆる
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
われ こころ あ あく すく だ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
くに ちから さか かぎ なんじ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 63 あめつちこぞりて かしこみたえよ
み恵みあふるる父・御子・御霊を アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告

松下保彦 長老

I 2章はルカ福音書だけにある記事

福音書記者ルカが使った資料は、すでに文書記録があったか、マリアの記憶をルカが取材したか、どちらかが考えられます。

① すでに文書記録があったとすれば、信頼のおける情報でないといけないのですが、こういうことをこの時点で記録する専門家がいたとすれば、やはり、洗礼者ヨハネのお父さんである、祭司ザカリアです。イエス様より半年先に生まれた自分の息子の仕事が、イエス様の道を準備するためだと、天使から告げられていました(1章)。ですから、息子のこととイエス様のごことはセットでした。息子に関わることは、すべて救い主イエスに関わることでした。いや、息子に関わること以上に、イエスに関わることはメシアの到来として重要なことでした。ですから、幼子イエスに起こったことを、訳を知っていて書くとしたら、この時点ではザカリア以外にありません。あるいは、ザカリアの後輩の祭司たちの可能性もあります。祭司ザカリアは年を取っていましたから、後輩もたくさんいたでしょう。記録するよう指示することもできたでしょう。

② マリアの記憶をルカが取材した可能性があるとしたら、それは、2章の中自体に、その根拠というか、可能性があります。19節。「しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」これは、羊飼いたちが飼い葉おけの赤ちゃんを見に来た時です。51節。「・・・母はこれらのことをすべて心に納めていた。」これは、神殿での少年イエスの出来事に関してです。母マリアは、イエスに起こった「ことをすべて心に納めていた」のです。ルカは2回繰り返して、このことを書き記しました。「よく覚えているなあ」と思いながら、マリアの話を聞いたのかもしれませんが。マリアは、天使の受胎告知の時から、「いったい、この挨拶は何のことかと考え込む」少女でありましたが、羊飼いたちが飼い葉おけの赤ちゃんを見に来た時は「思い巡らす」母でもありました。「すべて心に納めて」「すべて心に納めて」と、一つも忘れないように思い巡らしていた人だと、ルカは書き記しています。ルカがマリアから取材したとすれば、イエス様の誕生からは60年、神殿での少年イエスからは50年くらい経っていましたが、75才くらいのマリアが、ずうーっと「これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」可能性はあります。

③ さらにもう一つの可能性は、文書記録とマリアの記憶の両方です。注意深い医者であるルカは、「すべての事を初めから詳しく調べています」と言って書き始めています(1:3)。文書記録を見ながらマリアに取材している可能性があります。75歳のマリアが認知症になっていない、むしろ驚くべき記憶力で、それには大事な事をすべて心に納める注意深さと、それらを思い巡らす思考力があると診断しながら、文書記録を確認している可能性です。上福岡教会の歴史も60年近くなってきました。文書記録の中心は、ミッションから独立した後は「小会記録」です。それから『50年史』や「月報」、「週報」その他いろいろとあります。それらの文書が公的記録ですが、実際には記録に残らなかった事情やエピソードがいろいろあります。それらは現存している証言者によってしか語られないでしょう。

II 律法の下に生まれたイエス

しかし、幼子イエスがすべて律法の規定通りのことを受けられたことの意味は、パウロから学んだと考えられます。

第二テモテ4：9～11「ぜひ、急いで私の所へ来てください。デマスはこの世を愛し、私を見捨ててテサロニケに行ってしまう、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダル

マティアに行っているからです。ルカだけが私の所にいます。」 そうするとルカだけは、ずーっとパウロの話の聴いている可能性があります。その中には次のこともあったはずです。

ガラテヤ4：4「しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。」 「女から、生まれた者としてお遣わしになりました」はクリスマスですが、「しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」は、きょうの聖書箇所です。ルカはパウロの説教を注意深く聴きながら、実際どのように律法の下に生まれた者として手続きをお受けになったか、詳しく調べたのです。「女から生まれた者として」本当に神の御子が人になられたので、霊肉ともにたくましく育つ幼子になりました。しかし、「律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」ので、本当に私たち人間と同じ者になられたのです。神の御子は、律法の上におられる神です。しかし、律法の下に置かれました。それは、罪人が律法の呪いの下にある状態から救い出すためです。

ガラテヤ3：13「キリストは、私たちの呪いとなって、私たちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。」律法は善悪のおきてが事細かに書かれた神の命令です。善悪の木から取って食べたから神になれると悪魔の言葉に従った時から、人は皆、律法の呪いの下に置かれています。アダムとエバの子孫は皆、律法の呪いの下に生まれる者となりました。律法の上におられる神に等しい者となろうとしたからです。ところが、「キリストは、私たちの呪いとなって、私たちを律法の呪いから贖い出してくださいました。」このことを、フィリピの信徒への説教でも、ルカは聴いたことでしょう。2：6～8「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」

なぜキリストは十字架に架けられたのか。「木にかけられた者は皆呪われている」からです。善悪の木は祝福であったのに呪いに変ったからです。律法は善いものであればあるほど、人を罪に定めるよう作動することになりました。それは神のおきての作動ですから、誤作動はありません。神以外に呪いを解く者はいないのです。「キリストは、私たちの呪いとなって、私たちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。」(ガラテヤ3：13)このことの証言者として登場するのがシメオンという老人です。シメオンは讚美と預言をしています。預言は「この子は、・・・反対を受けるしるしとして定められています。あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。」とマリアに言いました。十字架を予見しているかのようです。

女預言者アンナという老婆も登場しますが、何を話したか内容は書かれていません。「そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した」と書いてあるだけです。しかし、幼子が救い主であることを話したので、イエスこそメシア、キリストであるということの証言者なのでしょう。

Ⅲ 201115上福岡教会CSこひつじ科 キリストの低い状態

ちょうど今日の箇所は、先週CSこひつじ科で話したことです。文書としても記録しておきます。音声はホームページから聴くことができます。

フィリピ2：6-8

「キリストは神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」

① みなさん、「使徒信条」を唱えましょう。

「われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、乙女マリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに下り、三日目に死人の内よりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを裁きたまわん。

われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン」

毎月第二日曜日、スーパーリンク先生が来てくださる日、大人の礼拝でよく唱えています。一年で10回くらいです。80才まで生きるとすると、一生で800回くらい唱えることになります。人生100才時代と言われていしますので、1000回くらい唱える人もいますね！

② さて、「使徒信条」は、父と子と聖霊の三位一体の神様のことを信じる唱え文句ですが、子なる神イエス様のことが、いちばん詳しいです。「われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、乙女マリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに下り、三日目に死人の内よりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを裁きたまわん。」

詳しいですね。詳しいですけど、二つに分けられます。前半はキリストの低い状態、後半はキリストの高い状態です。きょうは低い状態のところをお話しします。「主は聖霊によりて宿り、乙女マリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに下り、」というところです。

③ イエス様は、天の神の御子ですから、もともと高い状態におられました。その、天の神の御子が、どんどんどん低い状態になりました。「主は聖霊によりて宿り、乙女マリアより生まれ」と唱えるところはクリスマスですね。クリスマスは、キリストの低い状態の始まりなのです。ゆりかごでなく飼料おけに寝かされたことも低い状態ですが、神の御子が人間の赤ちゃんになるということが、とても低い状態なんです。クリスマスの季節は「降誕節＝こうたんせつ」と言います。「降誕」は降りて誕生するという意味の漢字を使っています。どこから降りて来られたのでしょうか？ もちろん、天からですね。

なぜ、天から降りて来られたのでしょうか？ それが次の唱え文句です。「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに下り、」です。本当に、どんどんどん低い状態になりました。「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け」というところは、裁判長ポンテオ・ピラトのもとで、罪のない人が罪人とされたという意味です。私たち罪人の身代わりになるために、神の御子が人間になられたのです。この裁判は、本当は神様の裁判ですから、イエス様は死んで葬られただけでなく、よみにまで下りました。地獄の苦しみを味わってくださったのです。イエス様を信じる人が、地

獄に落ちて恐ろしいことを味わうことがないためです。

④ どうしてここまで低くされたのでしょうか。私たちの罪の始まりが、高ぶったことにあるからです。善悪の木の実を食べたら神になれると思ったからです。私たちは皆、アダムとエバの高ぶりの罪を持って生まれてきます。神になれるのに高ぶるので、人が人に高ぶって差別やイジメが無くなりません。高ぶる心はくだかれないといけません。しかし、キリストの低い状態だけが、高ぶる心を打ち砕いてくれるのです。キリスト・イエスに感謝しながら、私たちは何度も何度もくだかれないといけません。